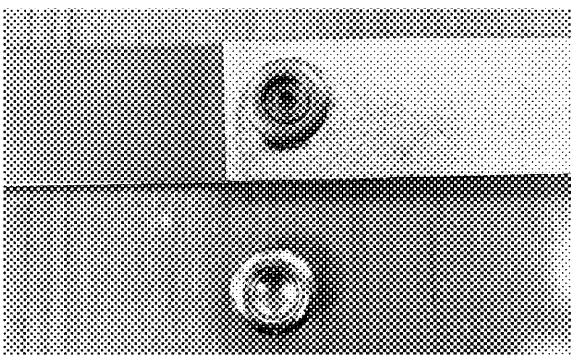


# 高強度異種接合を拡販

## ナ・デックス、既存設備活用

【名古屋】ナ・デックス（名古屋市中区、進藤大資社長）は、鋼板とアルミニウム合金など多様な異種材料の組み合わせを接合できる技術「RSR工法」を国内で拡販に乗り出す。

既存のスポット溶接設備を活用でき、強度と耐久性を備えた異種材料接合の工程短縮とコスト低減につなげられる。車体構造を一体成形する「ギガキャスト」の導入に貢献する工法として、自動車関連向けを中心に採用を提案する。



アルミ合金と鋼板をRSR接合した加工例

## 「ギガキャスト」に提案

RSR工法は、電流を流して抵抗熱で溶接する抵抗溶接の技術と、鋏（びょう）で金属同士を接合するリベット接合を融合。加圧しながら電流を流して

リベットがアルミ合金など材料を貫通するとともに、鋼板との接合部が溶融して接合する。加工時間はスポット溶接と変わらない。既存のスポット溶接

設備を生かし、フィードバックを追加することでリベットの事前挿入作業が不要となり、工程短縮につながる。通常のスポット溶接とRSR接合の混流・併用が

可能。鑄造や押し出し製品など幅広く対応する。

米国のハウメット・エアロスペース（ペンシルベニア州）が接合プロセスを開発し、カナダのセンタライン（オンタリオ州）がリベット供給システムを担当する。

軽量化やギガキャストなど車体製造の革新技術の実現に向けて、材料接合は課題の一つになっている。

車業界向けの接合装置で豊富な知見を持つナ・デックスは、新たな解決手法として国内向けに展開する。11月中旬に自社の技術センター（愛知県北名古屋市）で本格的なデモ機を披露する予定。